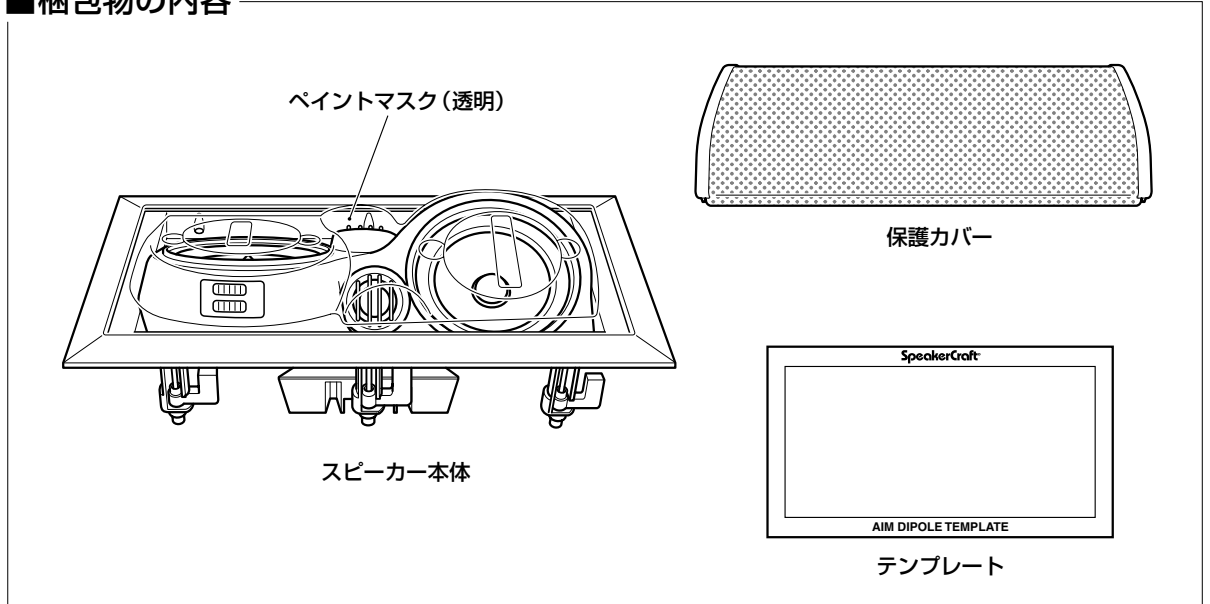


AIM DIPOLE

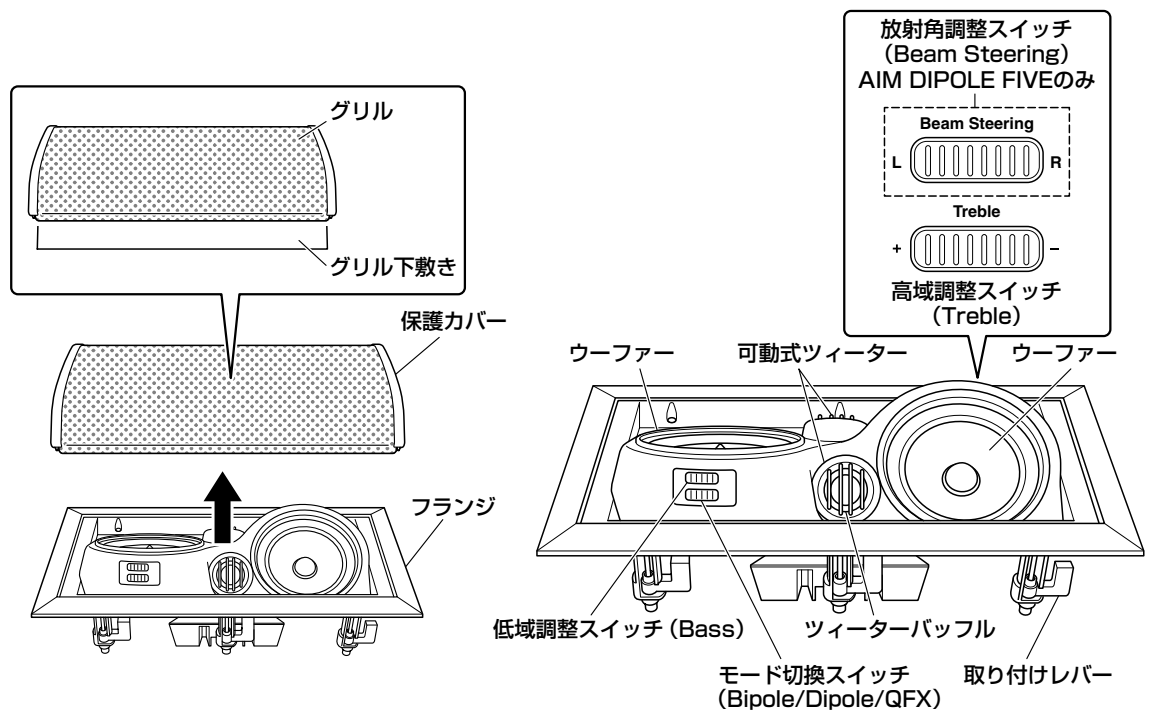
Surround Home Cinema Speakers

取扱説明書

■梱包物の内容



■部位の名称











- お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
- この説明書をよくお読みのうえ、工事の専門技術者が施工を行ってください。この説明書は、必ずお客様にお渡しください。
- 施工の際には本機のサイズおよび重量を考慮し、必要に応じて取り付け箇所への補強処理などを行ってください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた		絵表示の見かた	
<p>間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。</p>		<p>△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。</p>	  高温注意 感電注意
 <p>誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。</p>		<p>⊘記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。</p>	  分解禁止 むれ手禁止
 <p>誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。</p>		<p>●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。</p>	  電源プラグをコンセントから抜く 必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにアンプの電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
 - 本機を落としてしまった
 - 本機内部に水や金属が入ってしまった
- このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

分解、改造しない



分解禁止

火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない



水場での使用禁止



水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花瓶、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない



禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■長時間音がひずんだ状態で使わない



禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

取り付けのご注意

■締めつけについて



必ずする

ネジなどによる締めつけは確実に行ってください。緩んだまま使用しますと、事故の原因となります。

■天井面の切断について



必ずする

天井面を切断する場合は、切断面の力エリ、切りくずなどはきれいに取り除いてください。ケガ・火災・感電の原因となります。

警告

■ 取り付け場所について



注意

本機は一般屋内専用です。湿気の多い場所、振動のある場所、腐食性ガスの発生する場所等には、使用しないでください。火災・感電・落下の原因となります。

スピーカーを取り付ける壁面や天井面の強度によっては、補強が必要な場合があります。

■ 取り付け後のご使用にあたって



禁止

取り付け中、または取り付け完了後に、本機にぶら下がったり、より掛かったり、むやみに力を加えたりしないでください。落下・破損の原因となります。

注意

接続、設置に関するご注意

■ 取り付け場所について



必ずする

本機を天井面に取り付ける際は、十分な強度のある平らな面を選んでください。



注意

熱器具の近くや直射日光のあたるところには設置しないでください。近くで使用しますと、火災や事故の原因となることがあります。

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない



禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。

本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 配線コードに気をつける



注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

使用上のご注意

■ 音量に注意する



必ずする

突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない



禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったりデータが消失することがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は、アンプの電源プラグや接続コードをはずす



電源プラグ
をコンセント
から抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない



禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。

落下や転倒してけがの原因となります。サラネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

音のエチケット／楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



はじめに

本機は、2つのコーンウーファーと2つのドームツイーターがそれぞれ互いに50度の角度で外側へ向けられています。バイポール方式とダイポール方式の2つの方式に切り換えることができます。また、低音域の特性を上げるための回路を採用しています。(通常2つのウーファーが逆相になることにより、低音域の音が失われます。)美しいカーブと角度で最適な位置に配置されたドライバーにより最高のスタイルとパフォーマンスを発揮します。

スピーカーの配置

1. 視聴位置の決定

鑑賞時に一番良く座る場所を主な視聴位置と考えます。

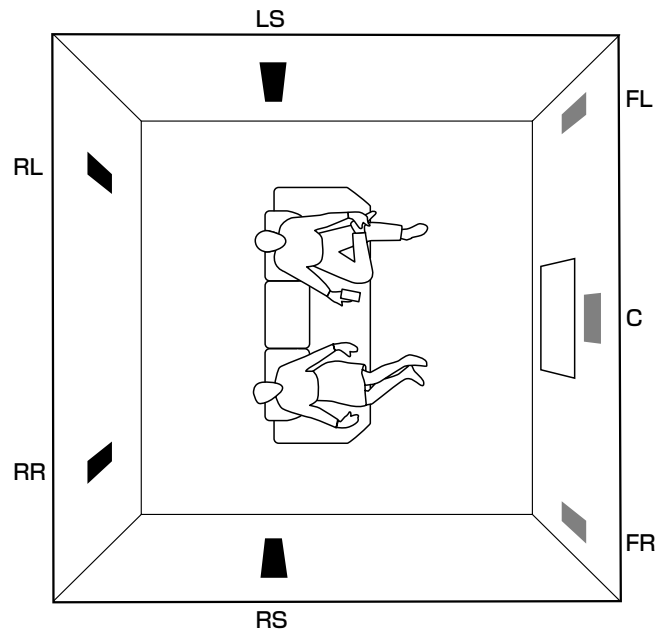
2. 配置

横または後方の壁で、視聴位置の少し上になるように配置します。(図1)

3. 障害物の確認

スピーカーの配置位置を決定する前に、胴縁、電線、配管、あるいは他の固定設備など、配置の障害になり得るものの位置を十分に考慮しておく必要があります。さらに、壁裏を実際に見たり、ホームセンターなどで販売されている間柱検知用具を使い、どこに間柱があるかをあらかじめ見極めておくことをおすすめします。

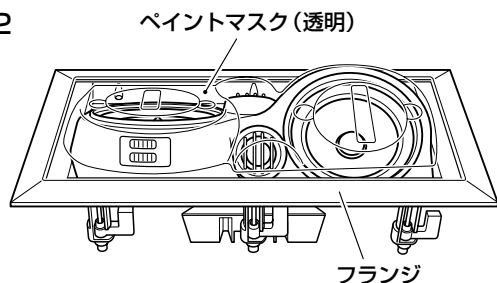
図1



スピーカーの塗装

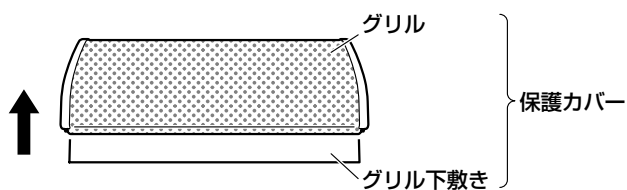
1. スピーカーに塗料を塗りたい場合は設置前等、スピーカーを壁から外した状態で作業されることをおすすめします。塗装する時は、ペイントマスクが付いた状態で行ってください。

図2



2. グリルの穴を塞いでしまわないように細心の注意を払ってください。
3. まず、グリルからグリル下敷きを外してください。グリルに塗料を塗った後、塗料が乾いたらグリル下敷きをもとに戻します。

図3



4. グリル下敷きにも塗装する必要がある場合には、グリルの塗装と同じ手順で行ってください。
5. 各部位の塗料が完全に乾いてから、スピーカーを壁に装着してください。

★塗料は原液1、塗料薄め液5の割合で作った塗料を軽くスプレー塗装することをおすすめします。

設置の前に

実際にスピーカーを設置する前に、あらかじめスピーカーの設置位置までケーブルを配線しておいてください。

設置する場合の準備

設置する場合は、下記の手順で行ってください。

1. 配置位置の決定

前ページ「スピーカーの配置」に従い、壁のどの位置にスピーカーを設置するかを決定します。

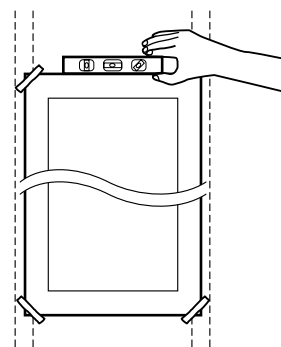
2. 障害物の特定

希望するスピーカーの取り付け位置に最も近い間柱を見つけてください。便利な間柱検知用具を使用されることをおすすめします。スピーカーは、中心になる間柱の左右40cmの場所に取り付けてください。取り付けを計画している場所に、間柱や障害物がないことを確かめてください。前ページ「スピーカーの配置」の「障害物の確認」の手順に従って作業してください。

3. テンプレートの型取り

決定されたスピーカーの設置位置に切り出し用テンプレートを置いてください。通常スピーカーバッフルの縁が開口部を2.2cm越えるようにします。間柱の間にテンプレートを置き、上下が水平になるようにします。(図4) 画鋸や粘着テープなどでテンプレートの位置を固定した後、鉛筆などでテンプレートの周りを型取りします。

図4



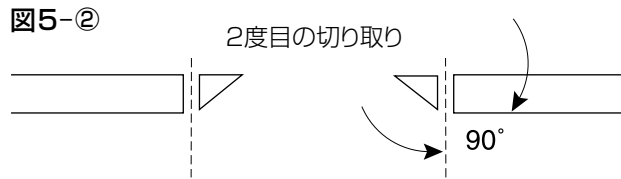
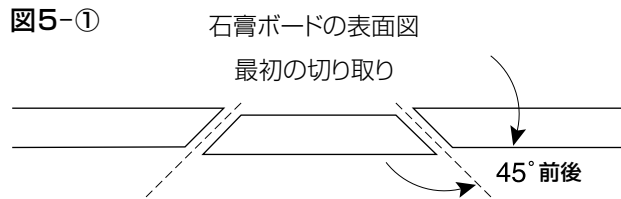
4. 取り付け穴の切り取り

取り付け予定位置の内側の障害物の有無が分からない場合は、まず鉛筆で型取ったスペースの中央にドリル等で小さな穴を開けます。次に石膏ボード用のノコギリを使って、穴の内側の方向に45度前後の角度で切り込みを入れます。(図5-①参照)

この角度で穴を開けると、もし場所を変更する時に、切り出したカケラを使うことによって石膏ボードの修復がたいへん楽になります。

(45度前後で切り込みを入れておくことで、石膏ボード本体との接着面積が大きくなります)

設置予定位置に障害物がないことを確認したら、今度は石膏ボードの表面に対して90度の角度で最終的な穴を開けていきます。(図5-②参照)



スピーカーの取り付け

独自の取り付けレバーにより、以下の手順ですばやい取り付けが可能になります。

1. まず、スピーカーについているグリルを取り外してください。
2. 次にスピーカーケーブルを接続します。(＋と＋、－と－、極性を合わせてください)
必ず、アンプの左チャンネルは左のスピーカーと接続し、右チャンネルは右のスピーカーと接続してください。
3. フロントスピーカーで正しい極性を得るためには、赤い丸の印(図6参照)が図7に示す矢印の向きになるようにします。

図6

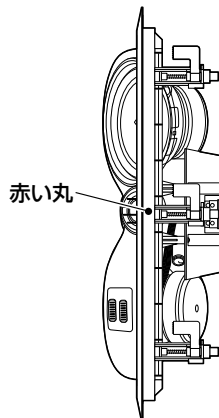
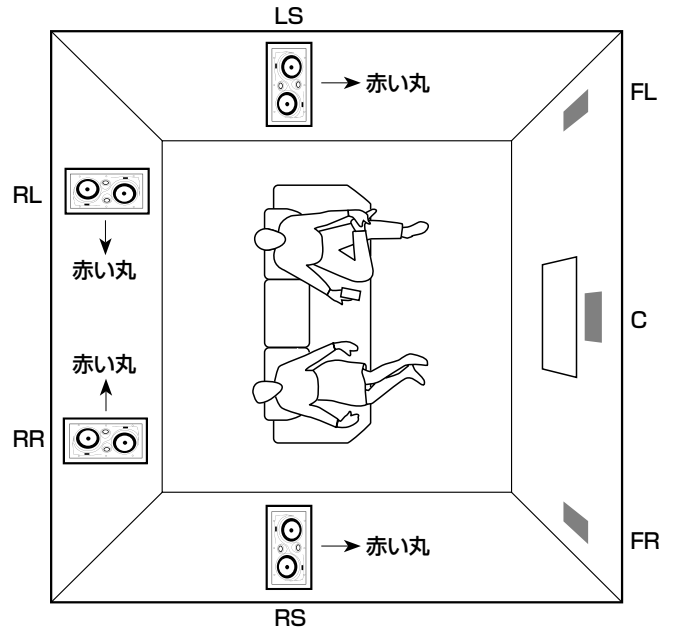
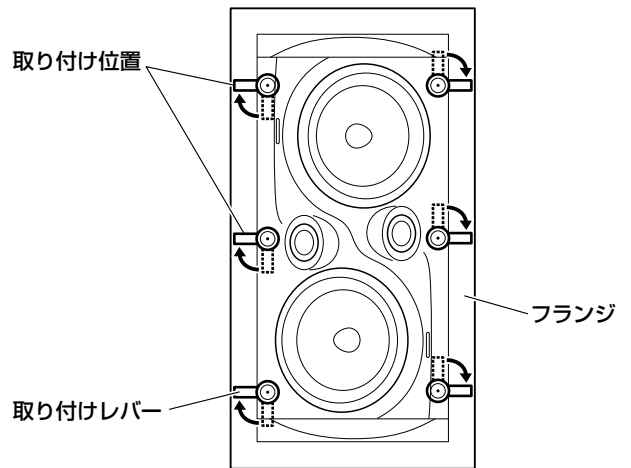


図7



4. スピーカーを壁に開けた穴の中に入れます。取り付けレバーを内側に曲げてじゃまにならないようにしてください。フランジが壁にぴったりと合うように、バッフル前面の6つのネジを順番に締めます。ネジを締めていくにつれて、取り付けレバーが自動的に外側の位置にはじき出され、レバーとフランジの間の石膏ボードを固定していきます。(図8参照)

図8



注意：ネジをきつく締めすぎるとバッフルをゆがませたり、壁面にひびをいかせたり、フランジを変形させたりするおそれがあります。

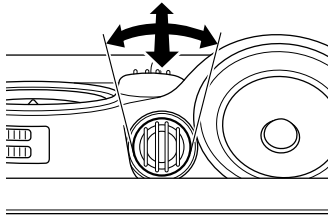
5. グリルをバッフルの中にしっかりはめ込んでください。

スピーカーの調整

●可動式ツイーターの角度調整

ツイーターはお買い上げ時は垂直方向になっていて、もっともなめらかな特性になります。部屋の状態や天井の高さなどにより、向きを変えることができます。高音部の強度をもう少し上げたい場合は、ツイーターをリスニングエリアの方向に向けてください。逆に高音部を少し抑えたい場合は、ツイーターをそこから離れた方向に向けてください。(図9参照)

図9

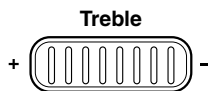


※ドーム型ツイーターは、傷がつく恐れがありますので、直接触らないようにしてください。お好みの方向にツイーターを向けるためには、ツイーターの縁を軽く押してください。

●ツイーターの音量レベル調整

高域調整スイッチ (Treble) を切り換えれば、 -3dB 、 $+3\text{dB}$ の2段階で高域の音量レベルが調整できます。なお、お買い上げ時は「+」に設定されています。お好みに合わせて調整してください。

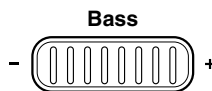
図10



●ウーファースの音量レベル調整

低域調整スイッチ (Bass) を切り換えれば、 -3dB 、 $+3\text{dB}$ の2段階で低域の音量レベルが調整できます。なお、お買い上げ時は「+」に設定されています。お好みに合わせて調整してください。

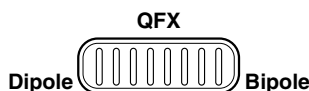
図11



●バイポール/ダイポール/QFX調整 (AIM DIPOLE FIVE/AIM DIPOLE THREE)

3段階スイッチで、右記のモードを設定します。

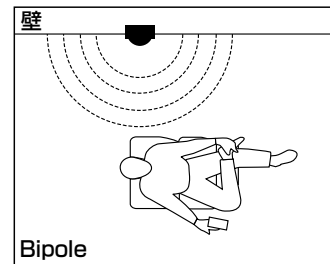
図12



バイポール Bipole

ドライバーの位相は同相となり、リスニングポイントへ音が放射されます。そのため特定の音像を構築することができます。図13は、Bipoleへ切り換えた際の放射パターンを示しています。

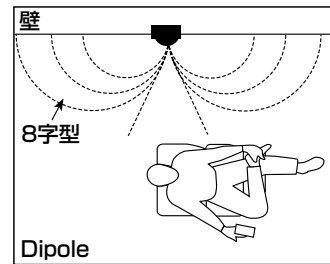
図13



ダイポール Dipole

ツイーター/ウーファースの位相が、もう片方のツイーター/ウーファースと逆相になります。リスナーの正面軸方向には音が打ち消しあって消え、音像は広範囲に拡散されます。このため、音はスピーカーからではなく部屋の奥から聞こえてくる効果を生みます。図14は、Dipoleへ切り換えた際の放射パターンを示しています。

図14



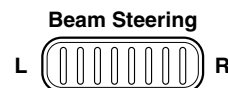
QFX (ハイブリッド・ダイポール/バイポール)

ツイーターは逆相で放射され、ウーファースは同相で放射されます。通常再生信号の高音域に指向性の強い成分が多く含まれます。このモードでは、その高音域のみに拡散成分を持たせません。ダイポールモードよりもリアチャンネルに指向性を持たせたい場合に切り換えます。

ビーム ステアリング ●Beam Steering調整 (AIM DIPOLE FIVEのみ)

メイン出力の出力角度を0度(通常位置)、前方25度、後方25度の3種類から選択できます。この調整で再大メイン出力の放射角を選ぶことができます。たとえば、ダイレクト出力とアンビエント出力の比率をこれで調整し、お客様の好みに合わせて後方の壁から反射音を少なくしたり、部屋の柱や固定されたインテリアの周りを「迂回」させたり、埋め込み型システムでの使用時で希望する配置が充分できない場合に補正機能として使用できます。

図15



■ AIM DIPOLE FIVE/AIM DIPOLE THREE 仕様

	<i>AIM DIPOLE FIVE</i>	<i>AIM DIPOLE THREE</i>
型式	2ウェイ インウォール型	2ウェイ インウォール型
ツイーター	アルミマグネシウムドーム型	アルミニウムドーム型
ウーファー	ケブラーコーン型	アルミニウムコーン型
インピーダンス	8Ω	8Ω
入力感度 (Bipole)	91dB (1W/1m)	90dB (1W/1m)
入力感度 (Dipole)	82dB (1W/1m)	82dB (1W/1m)
周波数調整	バイポール/ダイポール/QFX切換スイッチ、 ビームスティーリング切換スイッチ、 高音域、低音域±3dB調整スイッチ	バイポール/ダイポール/QFX切換スイッチ、 高音域、低音域±3dB調整スイッチ
周波数特性	48Hz~20kHz	50Hz~20kHz
許容入力	100W	100W
外形寸法 (幅×高さ×奥行)	235mm×442mm×125mm (フランジ後83mm)	235mm×442mm×125mm (フランジ後83mm)
カットアウト寸法 (幅×高さ)	192mm×398mm	192mm×398mm
質量	3.2kg	3.2kg

※製品の特徴や仕様が予告なく変更されることがあります。

SpeakerCraft 社製品ご相談・修理窓口のご案内**オンキヨーオーディオコールセンター**

TEL : 050-3161-9555 (受付時間 10:00~18:00)

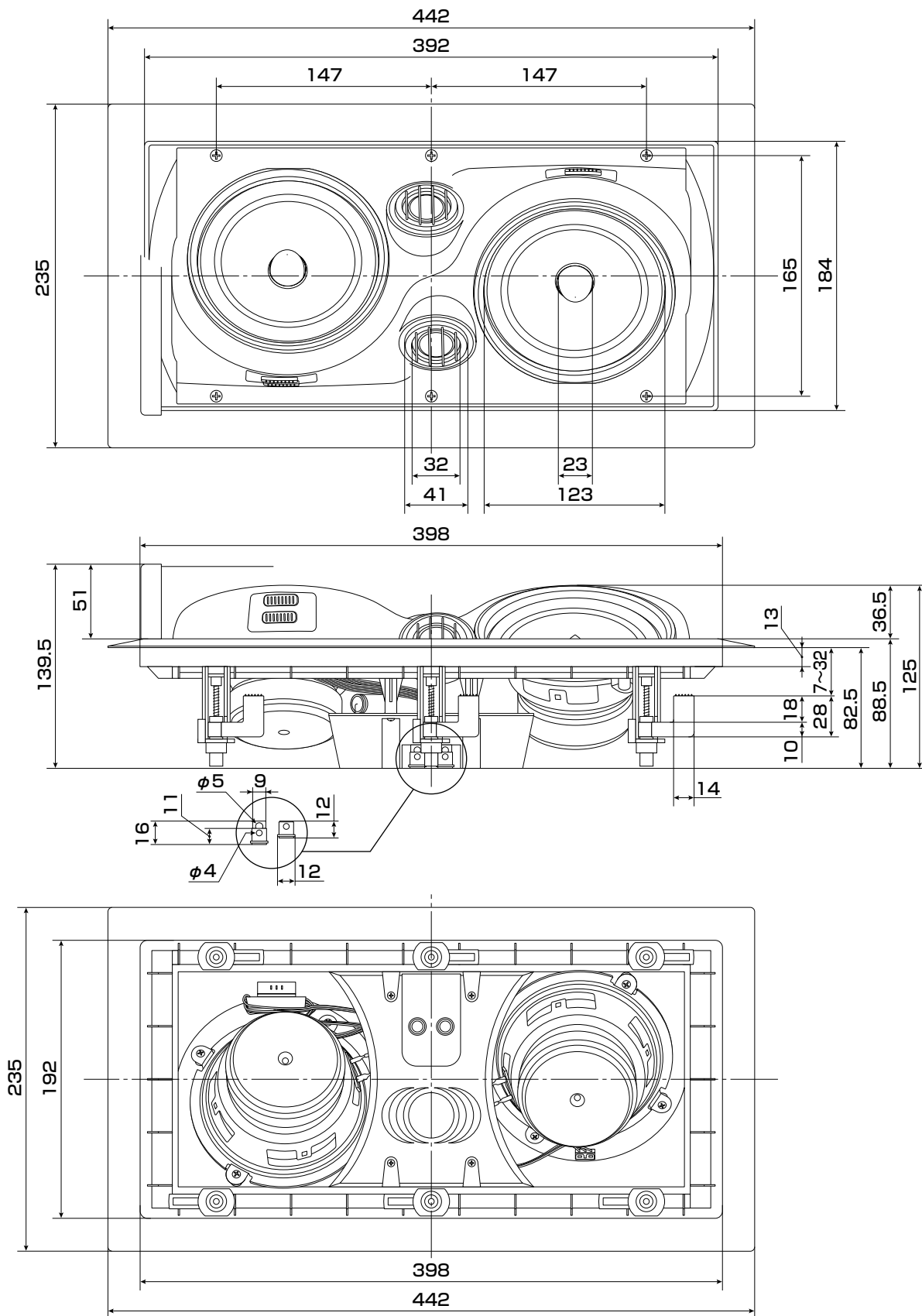
(土、日、祝日、弊社の定める休業日を除きます。)

AIM DIPOLE

外形寸法：幅235×高さ442×奥行き125mm

カットアウト寸法：幅192×高さ398mm

質量：3.2kg





輸入販売元

オンキヨーマーケティングジャパン株式会社

東京都中央区八重洲 2-3-12 〒104-0028